

3 学期始業式校長講話

あけましておめでとうございます。

年末年始にかけて大雪となり、かなり気温も低くなっていますので、今日の久しぶりの登校も、滑って大変だったことと思います。この年末年始は感染状況が比較的落ち着いていたこともあり、久しぶりにご家族が集まれた というご家庭もあったのではないかと、穏やかに新年を迎えられたことを嬉しく感じています。本日より3学期が始まりますが、残り3か月が平穩に終われるよう、皆さんには引き続き感染対策をしっかり行い安全に元気に過ごして欲しいと願います。

私は現在、一般の女声合唱団で活動しており、その活動の中で、年末に、あるとてもすてきな1曲に出会うことができました。ノルウェーの若手作曲家 アーネセンという作曲家の合唱曲で、「Even When He Is Silent」という曲です。これは、第2次世界大戦の際に、強制収容所の壁に描かれていた、たった3行のことばをテキストに作曲されたものです。

3行の言葉です

I believe in the sun even when it's not shining

I believe in love even when I feel it not

I believe in Got even when He is silent

「たとえ太陽が輝いていなくとも、わたしは太陽の存在を信じる」

「たとえ愛のない時も、わたしは愛を信じる」

「たとえ神が沈黙し給う時も、わたしは神を信じる」

作曲者は「これは信仰宣言である」と感じた と語ります。絶望の中であってなお、希望が存在することを信じ、あきらめない。決して太陽（希望）を失わない人間の強さを、美しい旋律と豊潤なハーモニーで歌う感動的な作品です。

苦しみと絶望のなかであって、希望を忘れない強い思い、信じるという信念に、強く感動し、信仰を捨てずに生きた一人の人間の姿を現代によみがえらせたこの作品を、私たちは思いを込めて現在練習をしています。

みなさんの中にも、いま現在、もがき苦しんでいる人もいることと思います。受験を前にした3年生、学校生活に悩む人、友人関係や人間関係で辛い思いのある人、この強制収容所で書かれた言葉には、辛さを上回る「信じる心」が伝わってきます。私たちは自分の行動に自信を持って、花開くことを信じ、いつか必ず光が見えることを信じ、願い、日々生活すること、それが「生きる」ということなのかな とあらためて感じます。

入学してから1・2年生は、まともに本校の校歌をうたうことができなくなっていますが、ちょっと本校の校歌を思い出してみましょう。本校の精神が歌われた一節に、「花に小さきを憂えずに、ただ全力を尽くさんと」とあります。100年を超える歴史の中、多くの卒業生が、この一

節を心に、全力を尽くして頑張ってきた方々の歴史がこの学校にはあります。私たちは小さな存在ですが、未来を信じ、夢へ繋げる、そんな年を送りたいと、令和4年の初めに皆さんと考えたいと思いお話ししました。

さて、3年生にとってはあと数日の登校日、そして間もなくの大学入試共通テストです。思い残すことなく、ラストスパートの日々を充実させましょう。1,2年生のみなさんも進級に向け、また自分の夢の実現のための3か月になるよう、時間を大切に有意義に過ごしましょう。感染の状況もやや不安になってきております。手洗い、消毒、マスクの徹底、健康観察。感染とは、うつること、うつすことです。自分だけでなく他人にも迷惑がかからないよう配慮して生活するよう、感染予防の徹底をよろしくお願いします。